

平成28年度 輪之内町立仁木小学校 学校評価書

学校の教育目標	<b>ひろい心を持ち、豊かに表現できる子</b>
経営の重点	学校の教育目標の具現に徹する学校の経営 ～一人一人のよさを引き出し、生かし、伸ばす意図的・継続的な指導・支援の推進 ①学級経営 ②学習指導 ③安全教育 ④道徳教育 ⑤学校評価 ⑥保護者とのコミュニケーション

※評価欄の記号 評価基準  
 A：実践し、効果をあげることができた。  
 B：実践し、一応の効果をあげることができた。  
 C：実践し、僅かだが効果をあげることができた。  
 D：実践したが、効果をあげることができなかった

町の重点	評価の観点	教員評価ポイント	評価	2学期の成果	来年度に向けて	学校関係者評価
【学校経営】 全教職員が協力して活力ある学校経営をする	1 ◎ ＜特色ある学校＞幼保・小・中の一貫性のある指導を充実させ、各学校の児童生徒や地域の特色を生かした創意ある教育課程を編成・実施する。	85	A	運動会や1年生との交流会を通じて子ども園と交流を行っている。クラブ等で外部講師を招いて指導を行っている。1年生と子ども園との交流が計画され、子ども園の園児が小学校へスムーズに移行できるよい機会である。いなほ祭りでは、PTAの活動ではあったが、中学生のボランティアや地域の素材の内容がよりよくなった。子ども園との交流、懸崖菊、米作り等、地域の特色を生かした活動が推進できた。	3学期に年長児の登校練習や、小6と中学校の生徒との会が計画されているようなので、スムーズに実施できるよう、全職員共通理解ですすめること。各教科・領域の確実な時間数の確保のため、特に総合学習の内容を検討していく必要がある。	・何の気なしに学校へ来てみても気づいてあいさつしてくれる。これが校外でも広がってほしい。
	2 ＜開かれた学校＞学校の教育方針や指導改善に向けての方針を受けた教育活動を積極的に公開し、学校評価や児童生徒の実態等を学校経営に生かし、開かれた学校づくりを推進する。	85	A	朝の忙しい時間帯だが、音楽集会など、多くの保護者が参観している。授業参観は減っているが、保護者の方が子どもたちの様子を見るよい機会である。いなほ祭りの復活や、音楽集会・思春期教室等のフリー参観、個人懇談等で、保護者や地域の方へ学校の実態を見てもらう機会を設けることができた。	授業参観が減ってきたが、保護者の関心の格差がある。保護者の協力をうまく活用しての学校経営の在り方を考えていく必要がある。お互いに負担にならないように。2学期末に行われた保護者アンケートの結果から、本校の課題が明らかになるので、各部署で具体的な改善案を話し合う場を位置付ける。	・学校だよりの内容が児童の実態からなので、とても説得力があり、含蓄のある文章だと思う。 ・一人一人の気持ちが高まるよう指導されている。町の音楽会で素晴らしい歌声だった。
	3 ＜危機管理＞児童生徒の命を守りきることを最優先に考え、全教職員が危機意識をもって一人一人の安全・安心の確保に努め、学校内外の環境を見直すとともに、家庭・地域社会・関係機関等との連携強化を図り、適切かつ確実な危機管理体制を確立する。	92	A	多種多様な命を守る訓練を行っている。また飛び出しなどの危険行為については、必要に応じて全校集会を行っている。命を守る訓練が、ほぼ1月に1回計画実施されてきた。先生方や子どもたちも「避難訓練」から「命を守る」という意識は高まったと感じる。いろいろな場面に対応できるように命を守る訓練を行っている。安全点検や登下校指導などの組織体制が整っている。安全な登下校は、まだまだ指導が必要であるが、定期的に班長会や通学班会をもつことで、意識の継続は図れた。	月1回あるので、授業時間確保の面ではどうかと思う。何を1時間の授業時間を使って計画し、何を朝の活動の時間に、あるいは休み時間に…始業式の日など見直しをしよう。命を守る訓練に真剣に取り組ませるためにも、回数や内容を厳選していくこと。	A ・米作り、いなほ祭りなどの内容の改善を図るとよい。 ・通学に関して言いたいことを伝えるとすぐ対応してもらっている。
	4 ＜スリム化＞校務分掌や運営組織等を見直すなどして業務のスリム化を図り、児童生徒に関わる時間を増やすとともに、教職員自身が心身に健康で、やりがいをもって教育活動に取り組めるよう、学校経営の充実を図る。	77	B	職員会をはじめとして会議のスリム化を行っている。職員会・日課等、無駄な時間が出ないようにスリム化されている。さらなるスリム化を目指して、改善点に着目しながら日々の教育活動が充実したものになるよう取り組んでいる。	・学校行事や学年の取組みにおいて、小規模校ならではの職員の配置と協力体制を組むことが、教育活動を支えることにつながると思います。命を守る訓練の回数や内容など、毎月でなく精選していきたい。来年度に向けて米作り、いなほ祭りなど内容の改善を図りたい。どの学年も単学級になったが、2学級あった時のままの体制がある。規模が小さくなり、職員数も減少しているため、校務分掌等の見直しをしていく必要がある。校務支援システムを導入して事務作業の効率化を図るとよい。・諸会議の終了時刻を決めておき、限られた時間の中で効率よく検討する意識をもつことが必要である。	・先生方の仕事量が多いからなのだろう、休み時間に外に出られる方が少ないようだ。
【研修】 自己の課題を明確にし、主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける	5 ◎ ＜校内研修＞校内の主題研究を組織的・計画的に推進するとともに、教職員としての専門性や確かな指導力を高める研修を主体的に行う。	87	A	全クラス研究授業を行っている。英語やICT、図工の研修を行い指導力をたけメルコができた。教頭先生、自らソーシャルスキルかるたの研修をしていただけたことはよかった。英語教育研修お計画されているが、短時間で、有効な研修があるのはよかった。・研究の視点を明らかにして授業研を通して深まってきた。	・月の行事予定の中に研修を位置づける。 ・来年度の町研に向けて、算数科の授業の流れやポイント等を示した、本校の算数学習スタンダードを確立していく。 ・来年度の町研に向けて児童同様【0学期】として意識をもち、礎と基礎を固めておく。中間まとめの会の実践から課題を共通理解して、町研のテーマに結びつくようにする。	
	6 ＜個人研修＞経験年数や職務に応じて、一人一人が個人研修課題を明確にし、具体的な目標と方策をもち、教職員としての資質や能力を高める研修に主体的に取り組む。	80	A	安八町であったケース検討会(夏休み)に5名も参加していただけた。自己評価しながら執務にあたることができた。・研修の機会を多くいただけて自己研鑽できた。その内容を職員に周知して、学校の財産にしていく必要性を強く感じた。	・輪之内町ケース検討会に、多くの人に参加してもらい、子どもをどう見ていくとよいのか、目の前の子どもがなぜその行動をするのか要因を考える意識づくりをする機会にしていく。 ・現職研修について、確実に実施できるように来年度のカレンダーに位置付けておく。	A ・研究に力を入れてもらっていることで、子どもに合った学習をしてもらっている。
	7 ＜情報研修＞分かる授業のためのICTの効果的な活用法及び情報モラル等、情報活用能力の向上に関わる実践的かつ効果的な研修を行う。	82	A	デジタル教科書などICTを利用した授業がなされている。どの先生方も積極的にICTの活用をされている。「こんな使い方もできるよ」など、放課後に話すこともできた。・デジタル教科書等の活用については、どの職員も積極的にできている。 ・デジタル教科書等の活用については、どの職員も積極的にできている。	デジタル教科書の使用もよくされているが、知らない機能がたくさんあり、さらに効果的に使用するための研修があるとよい。たくさん時間をとらずワンポイントアドバイスの紹介してもらえらる場があるとよい。	

町の重点	評価の観点	教員評価ポイント	評価	2学期の成果	来年度に向けて	学校関係者評価
【教科指導】 基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育て、学力向上を推進する	8 ◎ ＜基礎基本の定着＞指導目標と評価規準を明確にした指導計画のもと、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得とそれらを活用し、思考力・判断力・表現力を育てる授業を実施する。	87	A	朝の活動での漢字や計算の時間を取り入れたことで、朝から落ち着いた状況での学習がスタートしている。 国語での学習で、3年が1年に話すことを通して、目的意識を持つ学習展開を設定することで、どの子も意欲的に学習に参加できた。 朝活動の漢字計算タイムやみのりチャレンジに取り組むことにより、漢字や計算の力を付けることができた。	・筆箱、下敷き ノート 教科書など持ち物が揃っていること、整然とした机上など、基本的な環境を整えることを徹底する。 ・教師主導スタイルの授業がまだ多い。まとめや習熟の時間が十分に確保するための【無理なく・無駄のない】授業づくりに徹する。	A ・ゆとり教育からの脱却というようにことを学校長から聞き、子どもたちの将来を見据えた教育経営がなされているのを感じた。
	9 ＜個に応じた指導＞指導内容の系統性、発展性や児童生徒の発達の段階を踏まえ、一人一人の学力や学習状況に応じた多様な指導方法や体制、評価を工夫改善してきめ細かな指導をし、確かな学力の定着を図り、その状況や実態を見届ける。	80	A	小テストから誤答の傾向を調べ、補充プリントなどをつくっている。 みのりチャレンジを通して、漢字計算の全員合格を目指して、どの先生もいろいろ工夫され指導している。 ・非常勤講師や町講師、支援員さんたちが担任を補佐し、個に応じた支援に努めることができた。	・教務や研推から提案されたことを、どの学級でも意識して取り組む。	
	10 ＜学習集団づくり＞児童生徒の発達の段階に応じた各教科の学び方を身に付け、学び合う学習集団へと質を高めるとともに、学習習慣を確立する指導を充実する。	87	A	どの学級にも気になる児童はいるものの、2学期後半になり、どの学年も落ち着いてきた。 校内研究で算数科における学び方を確認し合った。	【7・8・30の授業構想】や【読む・聞く・話す・考える・準備する】といった5活動を効果的に位置付けた学習集団として育てていく。	
【道徳教育】 自己を見つめる力と他を思いやる心を育てる	11 ＜全教育活動を通じた道徳教育＞道徳教育推進教師を中心として、道徳指導別業を活用し、全教育活動を通して道徳教育を充実させる全体計画や指導計画を工夫改善する。	74	B		道徳の教科化に向け、全体計画や指導計画の見直しをする。 ・道徳の教科化に向けて、移行措置をどう進めるかを少しずつ決めていく必要がある。	B ・近所を通る児童はあいさつができていない。笑顔で気持ちがよい。 ・6年生の発表から人を思いやる心をしみじみと感じ、すばらしいと思った。 ・なぜこれをするのか、しなければいけないのか、理由付け教育をする。 ・校内のあいさつはよくできている。
	12 ◎ ＜道徳の時間＞道徳の時間（道徳科）のねらいを明確にし、道徳的価値の自覚を深め、道徳の実践力が育成されるよう、指導過程や指導方法を工夫する。	72	B	道徳の時間は毎週行い、道徳的なことがわかるように指導した。たんぼほ教室の中では、ゴミが落ちているとき、拾えるようになった。	・読み取り道徳から脱却し、議論する道徳、実践につながる道徳へと、意識を変えていく必要がある。	
	13 ＜心を育む体験活動＞ふるさと教育や「あいさつ・美化・ボランティア」への取組を通して、自己を見つめ、他を思いやる指導を充実する。	64	B	あいさつ運動、あいさつ木の活動を行ってきた。 全校体制での取組みによって、良い方向へ進んでいる。 ・掃除の仕方がずいぶんよくなってきた。自分たちの学校を美しくしようとする気持ちが見られてきた。	まだまだ自分からあいさつができる子が少ない。今後もキャンペーンなどを行っていく必要がある。 課題は、挨拶があまりできない。こちらからあいさつしても、全くかえってこないときがあるので、これからも根気強く続ける。 ・あいさつについては、児童・職員・保護者・地域での取組がリンクしながら広まるように、内容や方法を考えていきたい。	
【小学校外国語活動】 外国語を通じて、コミュニケーション能力の素地を養う	14 ◎ ＜指導計画・指導体制＞児童の実態や学習段階を考慮した指導計画を工夫改善し、一人一人にコミュニケーション能力の素地が養われるよう指導を充実する。(小)	90	A	校内研修会が行われ、指導の工夫のヒントを得られた。 ALTの指導の下、ゲーム形式で会話がされ、興味を持って外国語活動がなされている。 事前に打ち合わせの時間を設定したことで、担任の先生も授業準備がスムーズに出来たかと思われる。 ALTの先生が実態をよく把握してトピックやゲームを考えてくださり、子どもたちは英語に楽しく親しんでいる。 事前打ち合わせをするようになって、授業の見直しをもてるようになった。 ・ALT任せではなく、事前の打ち合わせの時間を取るようにしたことが大きな前進であった。	・研修で学んだことを実践に生かすこと、HRTが中心で授業をしていく心構え、平成30年からの実施に向けた意識を高め、実践力を高める。 ・年度始めにはモデル授業を公開し、目指す授業を共通理解する。	A ・ALTとの授業に慣れていないので、打ち解けて交流できる子になっていくと思う。
	15 ＜指導過程＞積極的に外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさを体験する活動を工夫する。(小)	87	A	・外国語活動の時間には、多くの児童が生き生きと活動することができた。		
【総合的な学習の時間】 探究的な学習を通して、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。	16 ＜全体計画・指導計画＞小・中学校の接続や各学校の目標を踏まえ、学習のねらいや内容、各教科等との関連を一層明確にし、課題意識が連続発展するよう全体計画や指導計画を工夫改善する。	82	A	今年度はいなほ祭りが復活し、5年生が米作りのことを発表をよく頑張っていた。 3年は、懸崖菊づくりを通して、仕事をしている人たちの生き様を学ぶことができた。	・総合的な学習の時間のねらいを達成するために必要な活動は残し、教育的意義のある活動を地域の方の協力を得ながら進めて行く。 ・来年度に向けて、米作りは縮小する方向で動いているため、特に5年生の活動内容を新たに計画する。	A ・懸崖菊等その他各学年に応じた学習がなされ、「生活の知恵」的な知識が身につけているのではないかと、何事も実践が大切である。 ・発表を聞く態度、メモをとる様子から集中していることが分かった。
	17 ◎ ＜探究的な学習＞身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、総合的に働かせるよう、体験活動と言語活動を意図的に設定し、探究活動を充実する。	80	A	外部講師やICTを活用した活動がなされている。 ・地域の方を初め、多くの方に講師としてきてくださり、探究活動の充実につなげることができた。	・2学期までの活動で得た知識等を、言語活動と関わらせ、みのり発表会へとつなぐ。総合的な学習の時間のまとめの発信の場として位置付ける。 ・実践後のふり返りを大切にしてこれから求められるアクティブ・ラーニングにつながる教育活動として発展させていく。	
【特別活動】 所属感を高め、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる	18 ＜指導と評価＞児童生徒の自発的、自治的な活動（いじめ問題への取組等）を展開し、一人一人の児童生徒が自分に自信をもち、自分のよさや可能性を發揮してよりよい生活や望ましい人間関係を築こうとすることができるよう指導と評価を一層工夫改善する。	85	A	幸せプロジェクトなどの取り組みが、企画委員会を中心に行われた。各委員会もよりよい生活を築くために取り組むことができた。 ・各委員会の活動が活性化し、よりよい学校生活を送ることができるような取組ができた	幸せプロジェクトなどの取り組みが、企画委員会を中心に行われた。各委員会もよりよい生活を築くために取り組むことができた。 ・キャンペーン活動の重なりがあり、指導する側も指導しきれなかった面も見られた。年度当初に出される委員会計画に沿って計画的に進める必要がある。	A ・委員会について、何をしているのか、どうしたのかがはっきりしている。
	19 ◎ ＜学級経営＞学級の諸問題を解決する活動を通して、望ましい人間関係や学級集団としてのまとまりを育て、学級経営を充実する。	80	A	どの学級も休み時間に学級遊びをしている。係の子が活躍し、外遊びができていることはすばらしい。ドッジボールなどのゲームをする中で、諸問題も出てくる。話し合い等よい機会である。	サッカーボールは新しくなり、空気を何度も入れなくてすむようになったが、学級ボールは……。子どもたちがいつでも使用できる環境を。	

町の重点	評価の観点	教員評価ポイント	評価	2学期の成果	来年度に向けて	学校関係者評価
【生徒指導】 共感的な理解に徹し、望ましい人間関係を築く力と自己指導能力を育てる	20◎ ＜生徒指導（教育相談）体制＞不登校や問題行動（いじめ、暴力行為、薬物乱用、性非行、インターネットを利用した誹謗中傷や違法行為等）といった生徒指導上の諸問題に対して、全教職員が危機意識をもち、日常的な教育相談やアンケートなどを通して未然防止や早期発見に努め、家庭や地域・関係機関等との連携を積極的に推進し、組織的に対応する。	85	A	毎月期間を設けてアンケートが行われ、個別に懇談も行われている。30日以上欠席者が3名いるが、担任、保護者、養護教諭、教育相談担当と連携しての対応をしている。 校長先生教頭先生が学級の問題（物の紛失）についてよく相談にのっていただき、連携を図りながら進めることができた。 生徒指導交流を毎週行い、職員の共通理解を図ることができた。 ・職員の情報共有と、問題事案が発生した時の生徒指導主事を中心とした動きができた。	・情報モラル教育を児童・保護者ともに受ける場をもち、情報モラルの大切さを理解する場をもった。	A ・自己肯定感が低いとのことだが、中学生の実態も合わせて輪之内町の地域性なのだろうか。無難に生きていきたいという見えない意識かも知れないし、周りの目を気にしているのではないかと。登下校の折に、今日やったこと、がんばったことを話してくれる。また行事をどう進めたらよいかも相談し合っている。
	21 ＜学年・学級経営＞一人一人が個性を發揮し、存在感・所属感・達成感を味わい、望ましい人間関係を築くことができるよう、児童生徒の関わり合いを大切に学年・学級経営と授業を全校体制の指導により充実する。	82	A	不登校傾向を抱えている学級担任の様々な工夫をしている。その子が登校した時に入りやすい学級づくりを大切にしていることがわかる。 ・担任だけでなく、多くの職員が支援の必要な児童・気になる児童への働きかけを積極的に行うことができ、認められて自信につながってきている児童が増えてきていると感じる。	登校したら名札を出す・廊下や階段は歩く・黄帽子をかぶるなど当たり前のことが当たり前にできるように全職員が同じ歩調で指導をする。	
	22 ＜生命尊重・倫理観・規範意識＞全教育活動を通して、一人一人が自他の生命を尊重し、倫理観や規範意識を向上させることができるよう指導を徹底する。	85	A	職員室の出入りの時の挨拶が、以前と比較して上手になってきた。 学校におけるあらゆる機会を利用して、自他の生命を尊重できる指導ができた。 ・連れ去り防止教室や命を守る訓練で、「自分の命は自分で守る」意識が以前より高まってきたと感じる。		
【進路指導】 自己の生き方を考え、主体的に進路を選択できる能力や態度を育てる	23◎ ＜勤労観・職業観＞望ましい勤労観・職業観が育つよう、他の教育活動との関連を図り、ねらいを明確にした体験活動（職場体験、係活動、清掃・奉仕活動など）を位置づけることと、事前や事後の指導を充実する。	77	B	掃除時間、1学期に比べ、静かになった。2年生の姿を見て1年生が学ぶ場面もあった。環境委員の子が、お昼の放送を利用してよい姿を発表してくれることがよききっかけになっているのだろうか。	掃除をするようになったが、掃除道具の片付け、最後のゴミの始末ができていないことがある。掃除の時間配分が理解できていないこともあるかもしれない。又、指導しきれていない部分があるようだ。もう一度基本に戻って片付けまでの仕方を指導すべきではないだろうか。児童が一番多くふれる職業人は教師である。教師の姿を見て、望ましい職業観が育つよう、全職員が心して児童の前に立てる教師集団でありたい。	B ・校舎のすみずみまでとてもきれいであった。
	24 ＜ガイダンス＞一人一人が自己の能力・適性や多様な可能性を理解し、将来の夢や希望の実現に向けて自分のよさを生かし主体的に進路選択ができるよう、個に応じた正確な情報提供や説明及びそれらに基づいた学習等のガイダンスの機能を充実する。（中）	74	B			
【健康教育】 運動に親しみ、進んで健康で安全な生活を営む態度を育てる	25◎ ＜保健・安全・食＞児童生徒の体力・運動能力、食生活等の生活習慣、心身の健康状態及び安全に対する意識・行動を的確に把握するとともに、他の教育活動との関連を踏まえて「健康・安全・食」に関する指導を工夫改善する。	92	A	手洗いの音楽が決まった時刻になるようになり、手洗いを意識するようになってきた。保健委員会の取り組みもあり、給食準備時間にマスクをするようになった。 栄養教諭による毎月の給食訪問で、給食に関するお話をしていたり、食事の仕方について声をかけていたりした。 担任・栄養教諭・養護教諭等が連携して、共通理解のもと、組織的に指導している。 ・手洗いの励行、衛生に気をつけた給食配膳、歯磨きの励行など、指導や見届けの仕方が工夫され、徹底しつつある。	手洗い、マスクの着用、給食時間の過ごし方等、さらに定着を図るために今後も指導を継続していく。	A ・寒風の中、休み時間になると子どもたちは運動場で嬉々として青んでいる。このようにして体を鍛え心を鍛え、友だちとも仲良くでき、授業にも集中していくのだと思った。
	26 ＜運動推進＞児童生徒が課題や願いをもって積極的に体力づくりに取り組み、日常的な運動実践の場や機会を充実する。	85	A		・みどりの時間に外遊びをするきまりを徹底し、体力づくりにつなげる。	
	27 ＜未然防止＞児童生徒の健康・安全を守りきるために、学校と家庭、地域社会が連携した組織体としての総合的な力を發揮し、健康被害等の未然防止に万全を期す。	85	A			
【特別支援教育】 一人一人の教育的ニーズに応じ、自立し社会参加するための基盤となる力を育てる	28 ＜校内支援体制＞特別支援教育コーディネーターを中心として、こども園や関係機関との連携を図りながら、ケース会議等で児童生徒理解を図り、一人一人の教育的ニーズを正しく理解して、全教職員が組織的に合理的配慮の充実に努める。	92	A	・不登校児のケース会議を開き、共通理解と今後の方向への見通しがもてた。 ・中学校との連携も図れた。 ・担任を支える支援体制が動いていて、スムーズに機能している。 ・特別支援教育コーディネーターと担任の連携により、個に応じたより適正な就学指導につながることができた。	・特別支援コーディネーターの複数指名をするよよい。 ・通級ができたが教師間の共通理解ができたが児童への説明や学級の存在意義等について徹底することができていなかった。年度始めに全校が集まる場で担当から話をすることを大切さを説いていく必要がある。来年度は職員間ではなく児童の心の育ちに生きるような指導を充実させる必要がある。	A ・先生方が努力してみえることが分かる。
	29◎ ＜個別の支援＞本人・保護者との合意形成及び関係機関との連携の下、合理的配慮の継続的な提供及び定期的な見直しができるよう一人一人の教育的ニーズに応じて「個別的教育支援計画」及び「個別の指導計画」を活用し、一貫した支援を行う中で、一人一人が能力や特性を發揮し、主体的に活動できるよう指導内容や指導方法、評価を工夫改善する。	87	A		・通級児童及び特別支援学級の児童の個別の支援計画の作成をすることができたが、活用には至っていない。3学期に見直しをし、来年度の担任にスムーズに引き継ぎが出来るようにしたい。	
	30 ＜交流及び共同学習＞特別支援学級等と通常の学級の児童生徒との交流及び共同学習を計画的・継続的にを行い、社会性や豊かな人間性を育むことができるよう指導を充実する。	77	B		・所属学年との交流学習をしてきたが、担任が特別支援学級の児童の目標、通常学級の児童の目標を明確にしていなかったところがある。両者の目標を明確にし、達成できるようにしたい。	
【人権教育】 不合理な差別をなくし、人権を尊重する温かい人間関係を醸成する	31 ＜人間関係の醸成＞互いのよさを認め合い、温かく思いやりのある望ましい人間関係を醸成する指導を工夫改善する。	77	B	・ひびきあいの日に向けた取組により、仲間の思いやりのある言動を認め合うことができた。		A ・講師を招いて課題について親子で話を聞くことができた。
	32◎ ＜いじめ・差別の解消＞いじめや差別を許さない学校・学級づくりに徹し、全校が一丸となった取組を継続的に行う。	82	A	ケース会議などを行い、いじめや、不登校の対策について話し合っている。 ・大きないじめ事案は発生しなかった。トラブルが小さいうちに、生徒指導主事を中心に解決を図ることができた。	・学校いじめ防止基本方針の点検、見直しを行う。	
【情報教育・図書館教育】 児童生徒の情報モラルを高め、情報化社会に対応できる情報活用能力を育てる ・日常的に読書に親しみ、教養・価値観・感性を高めようとする態度を育てる	33 ＜情報活用能力＞情報活用能力における児童生徒の実態を把握し、段階表に基づいた系統的な指導をする。	80	A	ICTを活用した、調べ学習やまとめがなされている。 授業にデジタル教科書やプロジェクターを活用できて指導がしやすい。	みのり発表会等での活用も進めていく。 フォルダの整理・校務分掌の前年度までの動きが分かるように分掌を開くと年度があるようにするよよいのではないかと。職員作業などで整理の時間をとるとよい。 段階表に基づいた系統的な指導を確実に行う。	A ・講師を招いて課題について親子で話を聞くことができた。
	34◎ ＜情報モラル＞情報モラル（SNSを介したネットトラブル等）について、意図的・効果的な指導を行う。	80	A	学活、道徳、朝帰りの会を通して情報モラルの話題を取り上げその都度指導してきた。	親子で情報モラル教育の講習を受ける。	
	35 ＜図書館教育＞学校図書館を利用しやすく整備し、図書館の計画的利活用や読書活動の推進に取り組む。	82	A	改修され本が並びやすくなった。 校舎改修を機に、廃棄本を整理し、本を見つけやすいように整理できた。	蔵書の種類や座席、机の数を整える。 図書館の本を乱雑に扱う子が多い。代本板が誰のものか分からないためのもー因と思われる。1年生の代本板（誰のか分かる）のように、全校統一の代本板としたい。	

町の重点	評価の観点	教員評価 ポイント	評価	2学期の成果	来年度に向けて	学校関係者評価
【ふるさと教育】 「ふるさと輪之内」に学ぶ態度と輪之内を愛し、誇りに思ふ心を育てる	36 ◎ <ふるさと学習>地域を知り、理解するための活動や地域人材を活用した授業を展開するなど、地域に根ざしたふるさと学習を積極的に推進する。	87	A	総合的な学習の時間の活動等を通して、地域の方とつながり、自分のふるさに誇りを持ちたり大切にすることを学んだ。菊、米作り等、地域の人材や産業を総合学習の中に取り入れている。	ふるさと学習に携わることができる人を「人材バンク」として名簿を残し、次年度からも活用できるようにする。	A ・町の行事に合わせて参加できるようにしてみえる。
	37 <国際交流>国際交流などを通して、グローバル化に対応した豊かな語学力・コミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化を理解する力等を身に付けられるようにする。	77	B	ALTと担任が事前打ち合わせをすることができるようになったのは、大きな前進である。		
【防災教育】 自らの命を守るための防災意識の向上を図る	38 <防災教育推進>学校防災マニュアル等について、学校や地域社会の実態を踏まえた改善を行うとともに、マニュアルに基づく訓練や校内研修会を実施するなど、安全管理体制と一体化した防災教育を推進する。	87	A	毎月訓練がある。 今年度、輪之内町の保健主事会で「学校安全(防災)年間計画」を作成した。年間を通じた取組みによって、次年度への取組み課題の方向も見いだすことができた。	訓練内容、回数の精選をしていく。 (訓練内容を吟味して合わせて行う。学期に1回は行事で行い、その他は休み時間や朝活などに行うなど。)	A
【家庭学習の充実】 自分の力で学習ができる児童生徒を育てる	39 <家庭学習習慣>家庭学習の手引きを活用し、望ましい家庭学習の習慣の定着を図る。	80	A	みのりチャレンジの前にパワーアップ学習習慣を実施し、家庭学習の定着につながった。手引きをもとに指導がされている。 パワーアップ週間の位置づけによって、児童が意欲的に家庭学習をする姿が見られた。	家庭での自主学習など、家庭での見守り。宿題は難しいが、根気よくやらせるようにする。 自主学習の内容が、ドリル等の習熟に偏っていないか、活用の手引きが実態に即したものでどの程度活用されているかを検証、改善につなげていく。	A